

令和2年度 第2回 広島県立大崎海星高等学校活性化地域協議会 議事要旨

【日 時】 令和2年12月4日(金) 15:00~16:10

【場 所】 広島県立大崎海星高等学校

【出席者】 (敬称略, 50音順) 梅田 敬司, 大久保 信行, 梶村 隆, 越田 賢一, 高田 幸典, 取釜 宏行, 西田 光也, 松本 達彦 (委員8名), 貞藤 基志 (県教育委員会事務局1名)

【議事概要】

1 開 会

2 説 明 今年度これまでの「高校の取組」について

- (1) 大崎上島学：1年生は島内にない職業の人とオンラインで交流, 2年生は地元企業に出かけての職業体験学習, 3年生は地域の課題を自ら見つけての課題発見・解決学習を行っている。
- (2) 生徒指導部：新型コロナウイルス感染症対策の影響で, 地域の祭り等に参加する機会が確保できなかった。しかしながら, 「海星フェスティバル」や「旅する権伝馬」を行うことができた。
- (3) 進路指導部：生徒の進路実現について, 総合型選抜対策講座, 公営塾との連携等を行っている。現時点で4年制大学への合格者が2名出ている。
- (4) 管理職：ワーク・ライフ・バランスを進めている。人材の育成にも継続的に取り組んでいる。
- (5) 教務部：中学生へのアプローチに取り組んできた。県外への説明会は, オンラインで実施してきた。8回の地域未来留学フェスタでは述べ506名, 学校独自のオンライン説明会では計86名の参加者を得た。大崎上島中学校についても, 2回の説明会とオープンスクールを実施している。
- (6) 高校魅力化推進委員：全国募集に関して, 資料請求84名, オンライン説明会86名, 学校見学56名。鳥取県の学校との交流, 「小規模校サミット」への参加, 「ひろしまの仕事図鑑」の計画・実施を通して他校との交流を進めている。近隣の中学校にも, 校長等が訪問している。

3 協 議 「活性化の方策」について

- (1) 入寮希望者が増加しており, 希望した生徒を受け入れたい。1学年2学級にするのはどうだろうか。
 - ア もっと増やせるならば増やしてみたい。2学級規模になれば, 教員の数も増える。
 - イ 一人暮らしでも入学したいという生徒も増えてきたが, 管理の面に不安がある。
 - ウ 島内の子供は30人程度なので, 島外に頼りにしての2学級はしんどいのではないか。
 - エ 2学級は本当に魅力的なのだろうか。「なぜ外部から」という声も大きくなるのではないか。
- (2) 生徒の元気な姿を見ると, 地域も元気になる。高校に憧れをもつような取組がさらに必要ではないか。
 - ア 「旅する権伝馬」, 「海星だより」は良い影響があったのではないか。しかしながら, 「旅する権伝馬」が嫌で進学したくない中学生もいる。陸上での活動もあることも伝えるべきである。
 - イ 木江小学校の太鼓部と海星の和太鼓部との交流を推進したらよいのではないか。
 - ウ 小学生は高校生に憧れを持つが, 中学生になったときに課題である。友人関係等の問題もある。
 - エ ウェリントン交換留学に行った生徒の進学率が高い。アピールが必要ではないか。
- (3) 地元へのアンケートをもう一度行ってみてはどうだろうか。
 - ア 高校魅力化プロジェクト開始当初に行ったが, それから時間が経ったので行った方がよい。
 - イ 現在行っている多くの取組について, 取捨選択していくことも必要ではないか。

4 まとめ

有意義な会議であった。アンケート等は行っていただきたい。

5 閉 会

